

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873300939		
法人名	ウェルフェア株式会社		
事業所名	ウェルフェア伊丹グループホーム		
所在地	伊丹市野間北5丁目7-20		
自己評価作成日	令和3年3月20日	評価結果市町村受理日	令和3年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和3年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小さな一歩でも昨日より確実に前へ進んでいることをモットーとし、事業所としては「地域」「信頼」「人づくり」の三本柱を基本理念とし「あきらめないケア」を大切に事業運営に努めています。信頼から生まれるケア、地域に根付いた施設運営、ウェルフェア伊丹ディサービスとも協力し、地域に開かれた行事の企画や実施を心がけていく努力を行っている。また、ご利用者様の生活に関してはご自身のペースを尊重し役割を持って頂きながら規則正しい生活の中で柔軟な対応をするよう努めています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイサービス事業所を併設し、施設の前に桜並木、近隣に広い公園があり、気候のよい時期は日課として散歩に出かけられる環境にある。「人づくり(家で生活している家族団欒のような人づくり)」を理念に入れ、職員が業務だけに追われることなく、利用者と一緒に体操(1日2回)、家事参加、ゲームやテレビ鑑賞等を行い、利用者が日常生活の中で楽しみや役割を持ち、自身のペースで生活できるよう支援している。例年は、施設合同の夏祭りに近隣住民を招待したり、高校生や地域のボランティアの来訪、トライやるウィークの受け入れ等、地域交流・地域貢献にも努めている。計画的な研修を実施し、職員の資質向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の見える所に理念を掲示しており、実行に繋げられるように努めている。	事業所独自の理念・基本方針を明文化し、日常的に職員が目にするリビングに掲示して共有と意識付けを図っている。理念に「地域」「信頼」「人づくり」、基本方針に「地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い、」を掲げ、地域密着型サービスの意義を明示している。理念・基本方針は具体的な内容となっており、職員が業務に追われることなく利用者と一緒に過ごす時間を大切にする等、理念の実践に向け取り組んでいる。	理念の実践のための月間目標を策定し、フロア会議で実践状況を振り返る等、理念の実践に向けた具体的な取り組みを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、新型コロナの感染が広がっているので買い物の実施は出来ていないが、天気の良い日に施設の周りを散歩に出かけている。ただし、地域の方との接点を持たないようにしているので地域との付き合いが少ない。	例年は、買い物や近隣の公園への散歩に出かけ、施設合同の夏祭りに近隣住民を招待し、また、トライやるウィーク、介護相談員、和太鼓や高校生の演奏等のボランティアの来訪があり、地域交流の機会を設けている。今年度はコロナ禍のため、交流や外出が困難な状況である。場所・時間帯に配慮しながら近隣への散歩に出かけたり、認知症介護に関する地域の相談に電話で対応する等、可能な範囲で地域への外出や地域貢献を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症介護の相談窓口になっている。		

ウェルフェア伊丹グループホーム

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)		<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年は年6回の実施が出来ていない為、運営推進会議開催日に次回の日程を決めて実施している。</p>	<p>家族代表・地域包括支援センター職員・地域代表等を構成メンバーとし、令和2年度は7月から3回開催している。全家族に開催を案内し、運営推進会議に多くの家族が参加できるように取り組んでいる。会議では運営状況や各フロアの活動状況等をレジュメで説明し、参加者からの意見・情報等をサービスや運営に反映できるよう取り組んでいる。会議の開催が困難な場合は、構成メンバーにレジュメを郵送し報告している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議事録のファイルを玄関に設置する等、個人情報に配慮しながら、議事録を公開することが望まれます。 ・会議の開催が困難な場合は、郵送するレジュメに、意見・情報・質問等の返信欄を付け、返信内容を次回の会議やレジュメで共有する等、書面会議でも意見・情報交換が行えるよう工夫してはどうか。 ・コロナ禍終息後に、可能な範囲での利用者の参加や知見者の参加を検討されることを期待します。
5	(4)		<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>地域密着型サービス連絡会へ積極的に参加している。現在、市の相談員の訪問はお断りしているが、新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いた時にはまた、来て頂く予定となっている。</p>	<p>運営推進会議を通して、地域包括支援センターと連携している。市のケースワーカーと協働し、利用者支援を行っている。市職員も参加する地域密着型サービス事業者連絡会(3ヶ月に1回・オンライン方式)に参加し、情報交換を行っている。今年度は市から新型コロナウイルス関連の最新情報をメールで受けることが多く、事業所の感染予防策などに反映している。質問や相談の際には、主に電話で市の担当課に問い合わせ、回答や助言を受け適切な運営につなげている。例年は、市が派遣する介護相談員の受け入れを通して市と連携している。</p>	
6	(5)		<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>施錠については外に出ようとされる方が数名おられるので鍵をかけている。身体拘束をしないケアについては研修や日々の業務の中で職員同士で話し合いを行い、身体拘束をしないケアの実践に努めている。</p>	<p>「身体拘束ゼロ推進マニュアル」を指針とし、身体拘束を行わないケアを実践している。(指針の内容の見直しを検討している。)各フロア会議で不適切な対応の防止に向け周知し、身体拘束や虐待につながるような適正化に努めている。各フロア会議で、「身体拘束」に関する研修を実施している。エレベーターの使用には操作が必要であるが、外出の希望があれば職員が対応し閉塞感を感じないように取り組んでいる。</p>	<p>フロア会議での検討を「身体拘束適正化委員会」として位置付けを明確にする、現状と適正化に向けた検討を議事録に記録し、職員への内容の周知を明確にするための工夫が望まれます。</p>

ウェルフェアー伊丹グループホーム

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、研修等を行い虐待となり得るケアの見直し等を行っている。また、不適切ケアが行われている時にはその都度、話し合いを行いケアの改善に努めている。	「虐待防止」についても、フロア会議の中で毎年2回研修を実施している。気になる言葉遣いや対応があれば、管理者が都度職員と話し合い、不適切なケアにつながらないように注意を促している。日頃から管理者が相談しやすい関係づくりに努め、毎月のフロア会議で支援方法等について職員間で意見・情報交換を行い、働きやすいシフト調整に配慮する等、職員のストレスや不安等がケアに影響しないように取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、入居者様の中に後見人制度を利用している方がおられるので実際の業務の中で実践出来ている。また、毎年研修も行っている。	フロア会議での「倫理・法令遵守」研修の中で、成年後見制度について学ぶ機会を設けている。現在、成年後見制度を活用している利用者があり、後見人の訪問時の対応や、連絡・金銭管理関係書類の提供等、制度利用を支援している。今後も、制度利用の必要性や家族からの相談があれば、管理者が窓口となり社会福祉協議会等関係機関と連携して支援を行う体制がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解除等の時には説明を行っており、改定等があればその都度、説明を行っている。	入居希望があれば見学対応を行い、パンフレット・料金表等でサービス内容の概略を説明している。契約時には自宅・入院先を訪問し、重要事項説明書・契約書・各種同意書・運営規定等に沿って、丁寧な説明に努め、文書で同意を得ている。特に、退居要件・入院時や重度化対応については詳細に説明している。契約内容改定時には、改定内容を明確にした書面を送付して同意を得る等、改定内容に応じ適切に対応している。契約の終了時には、契約書の条項に沿って、入院先等へ情報提供を行い、円滑な移行に向け支援している。	

ウェルフェアー伊丹グループホーム

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何かあれば適時、ご家族様へ連絡をして説明をしている。現在は面会が中止となっているので毎月お手紙やメールで状況報告を行っている。	今年度は家族の面会が困難な状況であるが、毎月の手紙と写真の郵送を継続し、また、ラインのビデオ通話を活用して利用者の様子や表情が伝えられるよう工夫している。家族からは、主として電話やメールで意見・要望の把握に努めている。利用者の意見・要望は、職員との日々のコミュニケーションを通じて把握に努めている。把握した意見・要望は、生活記録に記録して職員間で共有している。利用者の要望は近隣への散歩やレクリエーションに採り入れ、また、家族からの要望は、ラインでのビデオ通話で入居者の様子が伝えられるよう工夫する等、反映できるよう取り組んでいる。例年は、運営推進会議に家族の参加があり、介護相談員の受け入れを行う等、利用者・家族が外部者に意見等を表す機会を設けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中以外でも職員とのコミュニケーションを取る事で意見等が言いやすい環境を作るようにしている。	月に1回各フロアでフロア会議を行い、管理者は両フロア会議に出席し、職員の意見・提案を利用者支援・業務等に反映できるよう取り組んでいる。管理者は定期的に年2回個人面談を行い、業務の中でも職員の意見・提案の把握に努め、また、日々コミュニケーションをとる中でも個別に意見等を聴く機会を設けている。法人として、職員が直接意見等を伝えられる「ヘルプライン制度」を設置している。エリアマネージャーや代表者も参加するエリア会議・グループホーム会議等に管理者が参加し、職員の意見等を上位者に伝える機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のやりたい事があれば入居者様にも手伝って頂き、業務の中に取り入れられる環境作りを行っている。		

ウェルフェアー伊丹グループホーム

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の持ち回りで担当制で研修を行っている。また、職員によっては個別でケアの見直し等を行っている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会への参加の実施。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が間に入る事で他入居者様との関係作りが円滑に行えるように努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されて1か月程は入居後の生活状況の情報をご家族様へ連絡をしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時面談以外でも入居後1か月は職員間で情報共有を図っている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干しや畳んだり、月に1回料理作りでは野菜を切ったりしている。また、職員も一緒にテレビやゲームをしている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は面会をお断りしているので一緒に過ごす時間はないが、ご家族から電話が定期的にあるのでその時は自室にてゆっくりと話をして頂いている。		

ウェルフェアー伊丹グループホーム

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、面会等はお断りしているので実施出来ていない。たまにラインのビデオ通話で顔をみて頂いて話をしてもらっている。	入居時は家族記入のセンター方式シートにより、入居後は日々の会話の中で、馴染みの人や場所についての情報の把握に努め、申し送りノート・生活記録で共有している。例年、家族・友人・知人の面会、個別の買い物・外泊等を支援し、また、デイサービス利用者との交流もあり、馴染みの人や場所との関係継続を支援している。今年度は面会や外出が困難な状況であるが、ラインでのビデオ通話等で、家族等との面会が継続できるように工夫している。また、電話・手紙での関係継続を支援し、家族からの贈り物への礼状を送る支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に体操やゲーム、談笑等をして楽しい時間を皆さん作っておられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くの方なら道で会った時に近況を聞いたりすることはあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向に添えられるサービスが提供出来るように努めている。また、ご家族様にも要望等を聞いてご本人やご家族の希望に添えられるように努め居ている。	入居時は家族記入のセンター方式シート・面談記録・フェイスシートにより、思いや暮らし方の希望について把握に努めている。入居後は日々の会話の中で把握に努め、申し送りノートや生活記録、内容に応じて口頭で共有している。入居後、概ね2週間の生活について「日常生活24時間チェックシート」を作成し、生活リズムや暮らし方の希望等を把握し、個別の支援・介護計画に反映できるように取り組んでいる。思いや意向の把握が困難な利用者には、表情や反応から汲み取れるように努め、また、家族からの情報や意見を参考にし把握している。	

ウェルフェアー伊丹グループホーム

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃からコミュニケーションを取る事でこれまでの生活履歴の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、本人の状態を把握することで早期に気づくことで主治医へ報告、相談をしている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行う事と日々の様子から変わった事があれば、その都度、職員同士で話し合い状況に応じて介護計画の見直しを行っている。	センター方式シート・面談記録・フェイスシートをもとに、初回の介護計画を作成している。入居後概ね2週間は「日常生活24時間チェックシート」で、生活パターン・暮らし方の意向等を把握し、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。計画書のファイルを各ユニットに設置し、職員の周知を図っている。日々のケアの実施状況を生活記録・各種チェック表に記載している。(来年度は、ケアプランチェック表作成予定である)。毎月のフロア会議で利用者毎に状況の共有と検討を行い、「介護サマリー」を更新している。3ヶ月毎にカンファレンスでモニタリングを実施し、定期的には6ヶ月毎に計画の見直しを行い、利用者・家族の意向、かかりつけ医・看護師等関係者の意見を計画に採り入れている。	・生活歴・生活習慣・趣味・嗜好など人物像が把握できるフェイスシートの工夫が望まれます。 ・介護計画見直し時には再アセスメント、モニタリング時には介護計画の支援内容に沿った評価の実施が望まれます。 ・関係者の意見等は、カンファレンスシートに記録してはどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化があれば申し送りで伝えることと、記録にも記入し、ご家族様へ報告している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日その日で状況が違うのでその時々にあった対応を心がけている。		

ウェルフェアー伊丹グループホーム

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は地域との交流がないので出来ていないが、施設内で出来る事に取り組んでいる。	/	
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期往診以外でも、体調の優れない方がおられたら主治医が往診に来て下さったり、こまめな連絡をして下さる。	契約時に希望のかかりつけ医を確認し、利用者・家族の意向に沿った受診を支援している。月2回協力医療機関の内科医師の訪問診療を、希望に応じて月1回皮膚科・週1回循環器内科の往診を利用できる体制がある。また、通常は、精神科・歯科医師の往診、精神科訪問看護を利用できる体制がある。(現在は休止している。)他科受診での通院介助は家族同行を基本としているが、状況に応じて事業所が臨機応変に対応している。利用者の状況について、協力医療機関には適時情報提供し連携している。往診・通院時の事前の情報提供や受診結果など医療に関する情報は、「診療記録」「生活記録」に記録し共有している。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪看との連絡、報告は出来ている。状況によっては主治医へ報告もして頂いている。平日は併設のディサービスの看護師へも相談する事もある。	/	
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを提供している。入院中も週に1回は地域連絡室や病棟へ連絡し状況確認を行っている。	入院時には、介護サマリーで病院に情報提供している。例年は家族と連絡を取りながら面会に行き、病院関係者と状況確認や情報交換を行っている。今年度は面会が困難な状況であるため、主に電話で、地域医療連携室・担当看護師など病院関係者や家族から情報提供を受け、早期退院に向け支援している。退院カンファレンスの情報も、家族から連絡を受けている。把握した内容を「生活記録」「申し送りノート」で共有し、フロア会議等で退院後の生活に向けて検討している。退院時には看護サマリーの提供を受け退院後の支援に活かしている。	

ウェルフェアー伊丹グループホーム

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取り介護を行っていない。施設での生活が困難となる前に特養への申し込みや療養型施設となることをご家族様へ説明を行っている。	基本的には看取りを行わない方針があり、重度化・終末期段階の退居要件等に関する事業所の方針を、契約時に口頭で説明し同意を得ている。来年度は「重度化対応指針」を整備し、書面での説明を予定している。継続的に医療行為が必要になったり、事業所での生活が困難になった場合は、早い段階で家族・かかりつけ医を交えて今後の方針を話し合い、円滑なサービスの移行に向け支援している。話し合った内容は「生活記録」に記録し共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の救急訓練に参加が出来ておらず実践力は身に付いていない。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を毎年行っているが地域との協力体制の構築が必要であるが自治会もなく困難状況にある。	今年度は、8月に日中想定、デイサービス事業所と合同で、火災に対する避難訓練を1回実施している。消防の立ち合いのもと訓練を実施し、指導・助言を受けている。地地域との協力体制の構築については、自治会もなく困難な状況にある。管理者が管理責任者となり、米・飲料水・懐中電灯・カセットコンロ等を備蓄している。毎年、「非常災害時の対応について」研修を継続している。	・コロナ禍の終息後は、年2回、夜間想定を含めた災害時訓練を実施し、全職員が避難できる方法を身につけることが望まれます。 ・訓練計画・実施結果記録等を作成し、訓練に参加できなかった職員にも、フロア会議や回覧等で訓練内容を周知することが望まれます。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助を要する方が多くなってきている。また、指示が入りにくい方も多く職員の声掛けで不穏となる場合もあるので声のトーンやタイミングには注意しながら対応を行っている。	「プライバシー保護の取り組み」「認知症及び認知症ケアについて」「倫理・法令遵守関係」等の事業所内研修を実施し、尊厳やプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。日々の会話の中で、声のトーンやタイミング等で気になる言葉かけ等があれば、管理者が都度注意を促し、フロア会議でも注意喚起し意識向上に努めている。契約書等は鍵付き書庫に保管し、写真使用は館内掲示・家族への配布に留め、ホームページへの掲載時は個人が特定できないよう加工を施す等、個人情報の適正な管理に努めている。職員の守秘義務についても入職時に誓約書を交わっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いに寄り添ったケアが出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様によっては状況がすぐに変ってしまうので、その時々にあった対応を行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望の洋服を着て頂いている。		

ウェルフェアー伊丹グループホーム

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、下膳が出来る方についてはご自身でして頂いている。食器拭きやお盆拭き等、その方が出来ることをして頂いている。	厨房(業者委託)で調理された食事を提供し、毎日の炊飯・日曜日の汁物調理、利用者個々の嚥下状態に応じた形態食事への対応は各フロアで行っている。月1回、利用者の希望や季節感を採り入れて各フロアで「食事づくり」を行い、誕生日にはケーキを準備して祝っている。例年は、外食レクリエーションとして、年1回程度外食機会を設けている。(今年度は休止している。)グループホーム・デイサービス・委託業者が参加して月1回給食委員会を実施し、食事や食材についての利用者・職員の意見を委託業者に伝え共有している。通常は、日常的に、利用者の好みや得意に応じて食器拭き等の調理作業に参加できる支援している。今年度は「食事づくり」の準備に参加できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックしている。食事量が低下している方については高栄養経口摂取や食事形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時に口腔ケアの声掛けを行っている。また、一人で難しい方は介助をしている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けや誘導を行っている。	利用者個々の排泄状況やパターンを排泄チェック表で把握し、適宜の声かけ・誘導を行い、日中は全利用者がトイレで排泄できるように支援している。夜間については、安眠にも配慮し、利用者個々の状況に応じた介護方法で対応している。介助方法や排泄用品の使用について朝礼や申し送りノートで情報交換し、現状に適した対応を検討し、フロア会議で再確認している。利用者への声かけやドアの開閉等プライバシーや羞恥心への配慮について、職員間で周知徹底できるように取り組んでいる。	

ウェルフェアー伊丹グループホーム

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄が出にくい方にはトイレに座っている時に腹部マッサージをして促したり、下剤を服用して頂いている。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を断られる方もおられるが、時間をずらしたり職員をかえたりすることで入られる事もあるので状況に応じて対応を変えている。	週2～3回の入浴を基本とし、「生活記録」「月間生活記録」に入浴状況を記録して管理している。基本的には、一般浴槽での個浴対応で支援しているが、安全面に配慮して補助用具を使用している2人介助入浴や、シャワー浴など、状況に応じて個別の対応を行っている。利用者毎に更湯にし、職員と会話を楽しみながら自身のペースでゆっくり入浴できるように支援している。入浴を嫌がる利用者には、理由の把握に努め、時間・声掛け・職員変更等の工夫を行っている。希望に応じて同性介助で対応し、ドアと暖簾を設置し、プライバシーや羞恥心に配慮している。季節感を味わえるよう、ゆず湯の機会も設けている。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様によっては日中に臥床する時間を設け休んで頂いている。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更等があれば、様観しており変わった事があれば主治医へ報告している。また、定期薬でも普段との様子に変化があれば主治医へ報告している。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1回食事作りをしており、入居者様にも手伝って頂いている。毎日、レクの時間では頭を使ったレクや身体を動かす体操を取り入れている。		

ウェルフェアー伊丹グループホーム

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクについては現在、行っていないが天気の良い日に施設の周りを散歩している。	気候や利用者の状況・希望に応じて、例年は、日課として近隣への散歩やドラッグストア等への買い物に出かけたり、季節の外出レクリエーションとして初詣・花見・コスモス鑑賞等の機会を設けている。今年度は、天気の良い日に施設周辺を散歩するに留め、その他の外出は自粛している。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理者が金庫にて管理している。日用品を購入時は金庫から出して支払いをしている。お金の所持についてはご自身で管理することが難しい方が多いので所持している方はいない。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ごきょうだいから手紙や果物が届く方もおられる。以前は荷物が届いた時はお礼の電話をしていたが現在は会話が難しく電話はしていない。年賀状等は字が書ける方には書いて頂いてご家族様へ送っている。		
52		(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季毎にリビングの飾りを変えている。また、行事毎に写真を貼ったりしている。	リビングに利用者と一緒に制作した作品や行事の写真を飾り、また、桜やひな飾り等季節に応じて装飾を行い、季節感を採り入れるように努めている。日課として、1日2回の体操、テレビ鑑賞、また、洗濯物干しや洗濯物たたみ等の家事参加があり、家庭的な雰囲気や生活感が感じられる。各フロアに加湿器を設置し温湿度管理を行い、また、動線を考慮したテーブル席やソファの設置を行う等、安全で居心地よく過ごせるよう環境整備を行っている。	

ウェルフェアー伊丹グループホーム

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファに気の合った方同士で座りテレビを見たり、談笑をして過ごされている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や作品を持ってきて頂き居室へ飾っている。	居室は洋室で、洗面台とたんすが備え付けられている。ベッドは自宅で使用していた使い慣れたものや、事業所にあるものを利用している。たんす・テーブル・椅子等の馴染みの家具や、写真・装飾品等の好みの物が持ち込まれ、利用者個々の動線に配慮して設置する等、安全に自宅に近い環境で生活が継続できるように努めている。利用者の状況に応じて、入り口にわかりやすい掲示を工夫し、場所まちがいの防止を図っている。居室担当職員を設け、家族と連携しながら、衣替えや環境整備を行っている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアやトイレには分かりやすく張り紙をしております。		